



三月(大) 弥生 尾宿

(三月五日啓蟄の節より
月命癸卯七赤金星の月
暗剣殺西の方)

旧二月大
三月小

日	曜日	干支	行事	旧暦	六輝	中段	其宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	水	ひのと	奈良東大寺二月堂修二会、三隣亡、鹿兒島霧島神宮お田植祭、 春の全国火災予防運動(1日〜7日)	四	大安	おさん	壁	大ま	6.11	7.47	6.48	0.35
2日	木	つちのえ	ひな祭、 耳の日、新潟浦佐押合祭、 一粒万倍日	五	赤口	ひらく	奎	母倉	6.10	8.25	7.15	0.88
3日	金	つちのえ	啓蟄一八時三三分、 旧こと始め、旧針供養	六	先勝	とづ	婁	きこ	6.09	9.05	7.43	1.08
4日	土	かのえ		七	友引	たつ	胃	ぶく日	6.07	9.48	20.19	14.10
5日	日	かのえ		八	先負	たつ	昂	ぶく日	6.06	10.35	22.44	16.06
6日	月	みづのえ		九	佛滅	のぞく	畢	●	6.05	11.26	22.44	17.42
7日	火	みづのえ	消防記念日、天一天上、不成就日	十	大安	みつ	觜	十し	6.03	12.22	11.05	19.16
8日	水	きのえ	国際婦人デー、旧初午、 宮城岩沼竹駒神社初午祭	十一	赤口	たいら	参	神よし	6.02	13.21	13.34	20.26
9日	木	きのえ	茨城鹿島神宮祭頭祭	十二	先勝	さだん	井	大み	6.01	14.22	14.50	21.21
10日	金	ひのえ	塩竈神社帆手祭	十三	友引	とる	鬼	神よし	5.59	15.24	15.39	22.06
11日	土	ひのと	近江八幡左義長祭、一粒万倍日	十四	先負	やぶる	柳	●	5.58	16.26	16.20	22.45
12日	日	つちのえ	望二三時五四分、旧ねはん会、 奈良東大寺二月堂お水取り	十五	佛滅	あやぶ	星	母倉	5.56	17.46	16.56	23.21
13日	月	つちのえ	奈良春日大社祭	十六	大安	なる	張	母倉	5.55	18.25	17.30	23.53
14日	火	かのえ		十七	赤口	おさん	翼	母倉	5.54	19.23	18.04	12.07

春らしい陽気の日があると思ふと、急に真冬に立ち返ったような寒い日もある月で、気温だけがでなく、天候も激しい変わり方をする。関西では、十二日の奈良のお水取りが終わらないと春がやってくる、といふ伝えられ、一方、暑さ寒さも彼岸までと言ふことわざのあるのが、気温の不安定さを物語っているようである。

【冠】三月三日は「桃の節句」である。もともと「上巳の節句」といって、たまたま、これが桃の節句や、雛の節句といわれるようになったのは江戸中期以降らしく、現在のようになつたのは近年になつてからである。女の子が初めて迎える桃の節句を「初節句」といい、雛人形を飾つてその子の将来を祝う。内裏雛(たいりひな)が、雛人形の典型になつたのは、幼女が成長して、よい結婚生活を送るように願う心の現れである。

日	曜日	干支	行事	旧暦	六輝	中段	其宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
15日	水	かのえ	京都嵯峨釈迦堂お松明、不成就日	十八	先勝	ひらく	軫	五む日	5.52	17.48	18.37	12.36
16日	木	みづのえ	西宮広田神社例祭、三隣亡、一粒万倍日	十九	友引	とづ	角	大み	5.51	17.49	19.12	13.06
17日	金	みづのえ	彼岸入り	廿	先負	たつ	亢	天火	5.49	17.50	19.50	13.36
18日	土	きのえ	石川氣多大社おいで祭(23日迄)	廿一	佛滅	のぞく	氐	●	5.48	17.51	20.33	14.08
19日	日	きのえ		廿二	大安	みつ	房	十し	5.47	17.52	21.28	14.47
20日	月	ひのえ	春分の日、春分一九時二九分、彼岸中日、 上野動物園開園記念日、旧二の午	廿三	赤口	たいら	心	神よし	5.45	17.53	22.56	15.46
21日	火	ひのえ	下弦〇時五八分	廿四	先勝	さだん	尾	神よし	5.44	17.53	—	17.32
22日	水	つちのえ	NHK放送記念日、奈良法隆寺会式、 社日	廿五	友引	とる	箕	神よし	5.42	17.54	10.44	19.12
23日	木	つちのえ	彼岸明け、世界気象デー、 一粒万倍日、不成就日	廿六	先負	やぶる	斗	百事よし	5.41	17.55	13.04	20.17
24日	金	かのえ		廿七	佛滅	あやぶ	牛	大み	5.39	17.56	14.25	21.06
25日	土	かのえ	奈良薬師寺花会式(31日迄)、電気記念日	廿八	大安	なる	女	百事よし	5.38	17.57	15.15	21.48
26日	日	みづのえ	八せん始め	廿九	赤口	おさん	虚	天おん	5.36	17.58	15.58	22.27
27日	月	みづのえ	京都表千家利休忌	卅	先勝	ひらく	危	天おん	5.35	17.58	16.38	23.05
28日	火	きのえ	●朔一時五七分、京都裏千家利休忌、 東京品川千体荒神大祭、三隣亡、 一粒万倍日、不成就日、旧三月小	朔	先負	とづ	室	月とく	5.34	17.59	17.00	23.41
29日	水	きのえ		二	佛滅	たつ	壁	くま日	5.32	18.00	18.00	—
30日	木	ひのえ	旧ひな祭	三	大安	のぞく	奎	●	5.31	18.01	18.44	12.33
31日	金	ひのえ		四	赤口	みつ	婁	十し	5.29	18.02	19.30	13.11

【婚】婚礼の最も多い月のひとつである。ことに大安の日となれば、式場はステジュールが完全にうまつていて、誰しもがよい日を選ぶのは当然である。婚は本人同士の誓いを中心に近親の承認と祝福を得れば十分。結婚披露宴は、大宴を張るよりも時間内にムードを盛り上げるよう工夫しよう。

【葬】彼岸入りから彼岸明けまでの「春分」を中心にした七日間は春のお彼岸である。真西に太陽が没するこの期間、西方に浄土があるという仏教の教えから、無欲悟道の彼岸の域に一番近い日とされ、死者の冥福を祈り、仏供養、墓参りなどを怠らぬ。

【祭】奈良東大寺の二月堂では、十三日未明に堂前の若狭井の水を汲んで加持を行う。これは厳しい戒律のもとに千数百年にわたって続けられていたのが、国々の重要行事である。春分、秋分に最も近いつちのえの日を「社日」といふ、農耕の神を祭る。社日の社は「示」と「土」から成り立ち、土の神の意味である。